



## 今回は 探究活動を生かした進路実現 その3 の報告です。

### ◇ 津田幸輝さん（早稲田大学人間科学部人間環境科学科）の体験記！

#### おもな活動記録

- ・2019年度 第2回ダイバーシティSEKIシンポジウム 企画・運営
  - ※ LGBT問題に関わる啓発活動
- ・硬式野球部主将

私は、春から早稲田大学人間科学部人間環境科学科で新たな一步を踏み出すことになりました。将来やりたいことが具体的ではなかった私は、関高校が行う SGH 活動を通して様々なことに興味を持つことができ、進みたい学部を定めることができました。ここでは、SGH 活動の素晴らしさを含めた、私が高校で学んだことや経験を少しでも伝えられたらと思います。

#### SGH活動 ～LGBTに関わる活動を通して～

私は、2年生の SGH 活動でジェンダー平等についての研究をしました。なぜこのテーマを選んだかという、ニュースなどのメディアを通して「LGBT」という言葉を頻繁に耳にするようになり、それが何なのか気になっていたからです。ただそれだけの理由でした。

私たちのグループでは、ジェンダー平等の中でも、LGBT の人たちに絞って研究をするようになりました。最初はインターネットや本を使って知識を得ていましたが、それだけでは不十分だと感じ、関高校が主催している「さくら塾」に参加して当事者の話を聞くことにしました。そこでは、当事者の心の声を聞けるという貴重な体験をすることができ、私の考え方や価値観に大きな影響を与えてくれました。そして、そこでの交流や、前年に同じテーマの研究をしていた先輩たちの活動のおかげで、関市役所や中部学院大学の協力のもと、ジェンダー平等をテーマとした小学校低学年向けの紙芝居を作成することになりました。LGBT に対する偏見を無くし理解することは、子どもが幼いうちに学ぶべきだと考えたからです。ストーリー構成や言葉選び、助詞1つ1つにまでこだわること、聞き手に先入観や偏見を与えないようにするなど、LGBT 当事者や市役所の方、中部学院大学の紙芝居サークルと何度も話し合いを重ねて紙芝居を完成させました。現在この紙芝居は、関市内 19 の小学校に置かれて活用されています。

この活動に加え、県が主催する SGH 活動の成果発表会への参加、市役所と連携して、パネルディスカッションや紙芝居発表を行ったダイバーシティ SEKI シンポジウムの主催などの活動もしました。これらの活動は真剣に SGH 活動をしたからこそできたことだと思うし、これらの経験から学ぶこと、感じることは日常では味わえないことだと思います。そしてここでの経験は、必ず何かしらの形で自分の財産になります。私の場合はそれが志望学部の決定、進路実現に少なからず影響を及ぼすものとなりました。テーマはなんとなく選んだ感覚に近かったけど、SGH 活動を真剣にやることで、そんなテーマに興味・関心を抱くようになり、価値観さえも変わりました。学校の勉強は大変だと思うけれど、自分を成



長ささせてくれる SGH 活動にしっかり向き合うこともよいのではないかと、僕は思います。

## 硬式野球部の活動

私は野球部に所属し、主将を務めていました。勉強との両立は大変でしたが、野球部に所属して本気で野球をしたことは、私の宝物のような思い出です。最高の仲間たちに出会い、共に汗を流して戦えて心からよかったと思っています。ですが、これは全てのことに本気で取り組んだから思えることだと思います。1,2年生のときは先輩の試合に出るため、レギュラーに食い込むために、3年生のときは主将としてチームをまとめ、1つでも多く勝つために日々野球に励みました。その結果、1年夏から背番号をもらい、1年秋からスタメンを勝ち取ることができました。主将になってからは、毎日悩み、最後まで苦労しましたが、最後の夏の大会で学校として13年振りの初戦突破、16年振りのベスト16を掴み取ることができました。初戦に勝って校歌を歌っているとき、全ての思いが溢れて涙が止まらなくなりました。自分史上最高の瞬間でした。たくさんの人に応援・祝福してもらえたことも、とても幸せでした。

これらの成果を得るために私は、自分に厳しく妥協を許さない、ストイックな姿勢で野球と向き合いました。やるべきことをやったからこそ味わえたこともあると思います。また、主将という責任のある立場を務めたからこそ学べたこともあります。チームを1つにするために、まずは自分が姿で示すこと、チームメイトの意見に耳を傾けること、全ての人から信頼されることなどを意識していました。また、強いチームにするために、練習内容やトレーニングメニュー、作戦やオーダーなどを自分たちで話し合っ

て考え、主体的な意識を全員が持てるようにしました。これらの経験全てが、人の上に立つ難しさを実感させるのと同時に、人間的に成長できたと感じさせてくれました。

これまでの話は全て私のことですが、勉強だけではできない学び、経験、仲間などが、部活をすることで得られることは、誰に対しても当てはまることだと思います。高校での経験・仲間は一生もので、卒業後に部活での経験が役に立つことは間違いないです。ですから私は、勉強はもちろん、部活にも妥協を許さず、ストイックに取り組むことをおすすめします。



## 進路実現

私が早稲田大学人間科学部人間環境科学科への進学を決意したのは高校3年生になってからです。実はそれまでは、他の大学や他の学部への進学を目指しており、模試でも人間科学部と記入したことはありませんでした。そんな私が最終的に早稲田大学人間科学部を志望するきっかけになったのは、SGH活動での経験でした。ジェンダー平等についての研究を通して様々なことを学び、私はその中で社会学に興味を持つようになりました。

早稲田大学人間科学部では社会学を専攻することができ、また、社会学以外の幅広い分野の知識や資格も得ることが出来ます。大学で学びたいことが明確でない私にとって、興味を持った社会学+これから興味を持てるかもしれない多様な学問を学べるという点に惹かれました。また、今の私の目標は会社を起業して社会貢献することであり、その上で必要になる、経営者になるための知識などもトップクラスの水準で学ぶことができます。早稲田大学人間科学部で社会の流れ

や背景、経営の知識を学び、どのような分野・方向性の会社を企業・経営するかを考えたいと思っています。

私は早稲田大学を合格するのに、SGH 活動がとても力になってくれたと私は思っています。志望理由に影響を及ぼしたこともそうですが、SGH 活動自体が大学へのとてもよい自己アピール材料になってくれたからです。この活動は全国すべての高校が実施しているものではないため、活動そのものにも価値のあるものだと感じました。もちろん勉強も大切で、学力や成績はある程度は必要です。あくまで勉強が基本ではありますが、それに加えて SGH 活動や部活動の成果など、特筆すべき成果は多ければ多いほど受験には有利になると思います。私は、日々の積み重ねが合否に直結すると感じたので、後から後悔しない進路選択ができる日常を作りたいと思っています。

## 最後に

高校生活での全ての勉強、経験、学びは知らず知らずのうちに自分の力になり、自分を成長させてくれます。私は、どんなことでも、無駄なことは何ひとつ無いと思っています。成功しても失敗しても得られることは必ずあります。早稲田大学への進学を決める前に他の大学を受験し、それを失敗した私は、自分の準備が甘かったと後悔しました。今でもその後悔が完全に無くなったわけではありません。今度はその失敗を無駄にしないようにと、その経験を生かして早稲田大学合格を手にしました。ですが、大学受験で私のように挫折を味わうのではなく、第一志望合格を掴み取ることができれば、それ以上よいことはありません。失敗は必ず力になりますが、悔いが残らないことが1番です。そのためにやるべきことを考え、自分に厳しく実行できる人は強いです。

長くなりましたが、私は、やりたいことが定まっている人も定まっていない人も、後悔の無い進路選択をして欲しいと思っています。やりたいことが定まっている人はその目標に向かって、定まっていない人は人生の選択肢を1つでも多く持って、不自由なく進路を選べるように毎日を過ごして欲しいです。



麗沢瑞浪戦。1回裏2死2塁、先制の適時二塁打を放ち、応援席にガッツポーズ。(関市民球場にて)